

[継続]

分子発生制御研究アспект

- ・高等動物脳における学習記憶中枢の形成と可塑性を支配する遺伝子群の網羅的解析

(生物科学系 助教授 古久保(徳永) 克男)

マルチメディア情報研究アспект

- ・複合現実感技術の研究

(機能工学系 教授 大田友一)

外国語センター

1 外国語センターの活動

(1) 教育活動

従来通り、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語及び朝鮮語の7ヶ国語を開設し、全学の共通科目・外国語の教育を実施した。

カリキュラムはこれまで同様、第1外国語第2外国語とも「外国語の実用的能力を養う」ことを教育理念・目標に掲げ、履修学生に外国語の「読む」、「書く」、「話す」、「聞く」の4技能すべての領域で外国人と交流できる基礎的能力を身につけさせることを基本方針として編成した。

全外国語についての「外国語シラバス」を作成し、印刷せずにホーム・ページに公開したが、新入生の便宜も考慮して印刷したのも各教育組織に用意して対応した。シラバスには、授業の目標・内容・評価基準・使用テキスト・その他の注意事項に加えて、授業担当者への連絡方法を盛り込み、責任ある授業運営と厳密な成績評価がなされるように配慮した。シラバスは、ホーム・ページ上で語学別、科目別に閲覧できるようにした。

英語に関しては、各学群・学類から提出された教育目標にもとづき、学習効果を上げるべく1年次生向けにプレイスメントテストを行い、学群・学類別に、さらに習熟度別に分けたクラス編成を行い、授業を実施した。

英語に関しては例年通り学年末にその教育目標に達しているかを検証するために英語検定試験を実施した。その他、その一環として不合格者のための履修指導、再試験、及び、追試験等を行った。

ドイツ語では、例年通り検定試験を行い、ドイツ語の成果・達成度を点検し、前年度の不合格者に対して指導を行った。

ドイツ語では、大学間交流協定に基づき、自由科目(特設)ドイツ語として、夏期にパイロイト大学に海外研修のために15名の学生(人文学類6名、社会学類1名、比較文化学類1名、日本語・日本文化学類1名、生物資源学類5名、国際総合学類1名)の派遣を行った。

中国語では、大学間交流協定に基づき、自由科目(特設)中国語として、夏期に中国湖南大学に海外研修のために学生派遣を行った。

ロシア語では、大学間交流協定(部局間)に基づき、年度末にロシア連邦のサンクト・ペテルブルグ大学で学生1名(国際総合学類)が1ヶ月の短期語学研修を受けた。

本学では、外国語センターの外国語教育と各学群・学類の語学教育の連携がうまく行っておらず、大きな問題となっているが、英語セクションでは学長裁量経費を得て、平成11年度の大学改革委員会外国語センター問題検討専門委員会でもとめられた改善案にそって、学群・学類からも意見を聴取しながら、一昨年度と昨年度に全学の英語教育のフレームワーク造りを精力的に進め、一応仕上げる事ができたのを受けて、全学の英語教育に役立てて行く目処とした。また、本学学生の英語力向上をはかるために平成14年度より2年次生以上を対象に試行的に英語の上級クラスを開設した。

11 英語セクションが長時間をかけて英語検定試験問題の見直しを行い、その改善と充実をはかるとともに、

他方では14年度より、英語（英語基礎）という不合格者のためのクラスを開講した。

- 12 TAを雇用して授業の活性化をはかり、同時に外国語教育者の養成に努めた。
- 13 全学共通の外国語教育を実施するために必要な事項についての基礎的な調査研究の一環として『外国語教育論集』第25号（228頁）を発行した。また、学外者を招き、特別講演会を3回開催した。
- 14 高等学校の英語の教員を対象に英語教育学講座（公開講座）を夏に4日間（合計24.5時間）を実施し、高校の教員19名の受講者があった。

（2）教員組織

停年退官教員等の補充人事等を行い、教授1名・助教授1名を昇任及びフランス語担当助教授1名・英語担当講師1名を任用した。

図書館情報大学及び医療短期大学部との統合により、英語担当助教授2名、フランス語担当助教授1名及び外国人教師1名が転任した。

平成13・14年度をもって契約期限の切れる外国人教師3名及び引職された外国人教師1名の採用人事を行い、英語担当2名、ドイツ語担当、フランス語担当の外国人教師を任用した。

英語担当講師の引職に伴う後任補充人事を開始し、公募を開始した。

外国人教師14名（所属：外国語センター10名、比較文化学類2名、人間学類1名、医学専門学群1名）及び外国人講師20名（全員外国語センター所属）が、それぞれ一般外国語を担当した。

2 自己評価と課題

- （1）全学の共通科目・外国語教育、検定試験等の教育活動をしかるべく実施し、また研究活動も活発だった。センターとしての所定の諸業務を果たしており、一定の評価はできるであろう。
- （2）英語セクションが何年かに渡ってセンターの教育対象の1年次生ばかりではなく、全学学生の英語の能力向上のために、長時間をかけて筑波大学全体の英語教育のフレームワークを作り上げたが、それを実施に移したことで、および、懸案だった英語検定試験の充実等をはかったことは高く評価できる。
- （3）高等学校・中学校の英語の教員を対象に英語教育学講座（公開講座）は毎年開催されており、大きい社会的貢献を果たしており、高く評価できる。
- （4）現行では外国語センターの教員組織の会議、運営委員会の組織作りは内部の勤務教員の意向を十分に反映できるようにはなっていないが、それが依然として未解決のままになっており、今後の大きな課題として残っている。
- （5）前年度の欠員人事、および、定年退官教授の補充人事、外国人教師の補充人事が順調に進み、平成15年度は空席枠のない状態で仕事を進めることができるはずであったが、年度末に引職希望者が出て、その補充人事が進行中である。センターとして全学外国語教育実施に支障をきたさないための人員体制造りへの努力が続いている。
- （6）本年度も財務委員会等の一定の配慮を得て予算の追加配分を受けたが、現行の配分では十分ではなく、教育機器の保守等を十分に行えなかった。今後何らかの財政的な措置を検討しなければならないという問題は依然として残されている。

体育センター

1 体育センターの活動

体育センターは、全学学生の共通科目「体育」に関する教育課程の編成と実施、課外スポーツ活動の指導、体育施設の適切な管理、体育施設の一般開放等の業務を行なっている。

（1）体育の教育活動の改善

平成14年10月からの図書館情報大学との統合および医療技術短期大学の4年制化が決定した。これに伴って共通体育の受講者増が見込まれるが、これに関するカリキュラム編成や開設科目数増などの時間割の検討を